

## 港での散歩・つりの場所に関する満足度評価手法

—港におけるインタビューおよび現場実験の結果—

Methods to Evaluate Satisfaction Concerning Walking and Fishing Places in Ports  
—Results of Interviews and Field Experiments in Ports—

佐野 透\* 明田 定満\*\* 久保 彦一\*\*\* 梅田 滋\*\*\*\*

Toru SANO, Sadamitsu AKEDA, Hikoichi KUBO, Sigeru UMEDA

近年、港の整備を推進する上で、住民の参加とコンセンサスを得たコンセプトづくりの必要性が指摘されている。

本研究は、これを支援する手法のひとつとして、今後とも需要の増大が予想される親水性港湾構造物の整備を評価する手法の確立をめざすものである。具体的には、親水性施設が住民の心理面にもたらす効果や、港のよさを心理面で効果的に引き出すための方策を検討する。このことによって、どのような親水施設を提供すれば、住民の満足感を効果的に高め、利用を増加させることができるかを評価することが可能となると考えられる。

本報では、港において散歩やつりを行う際に、人がその場所をどの程度満足しているかを評価する手法を検討するため、港においてインタビュー調査および現場実験（モニター調査）を行った。その結果、満足感を高める要素として、海の広さ、岸壁の高さ、花や緑の多さなど様々な現場の状況を抽出した。また、これらの要素がどの程度であれば人は満足感を感じるかを分析した。

## 《親水性施設、住民、意識、評価指標》

In recent years, the need has arisen to develop concepts to improve or construct ports from participation by residents and consensus.

To support this goal, a study was made to establish a method to evaluate improvements or construction of amenity-oriented port facilities whose demand is expected to increase. This study examines the psychological effects of amenity-oriented port facilities on residents and determines how to effectively bring out a port's best psychological features. In this way, predicting which amenity-oriented port facilities will more deeply satisfy residents and increase their usage may be possible.

Our investigation was made through interviews and field experiments (monitoring) to consider measures which provide deeper satisfaction, such as walking and fishing, which are major leisure activities in a port. Various site conditions, such as the extent of the seascape, the height of a quay wall and the abundance of flowers and greenery, were determined as factors to increase satisfaction. Analyses were made to determine the degree of each factor necessary for residents' satisfaction.

< Key words: amenity-oriented port facilities, residents, awareness, evaluation indexes >

## 1. はじめに

本研究は、図-1に示すように、防波堤の幅を拡大すると歩きやすさが増大する、歩きやすさの重みの分だけ散歩の満足度が増加する、散歩の満足度が増加すると利用回数が増加するというように、人の感じ方、満足度、利用回数と3つの段階をたどって、親水性施設の整備を評価する手法の検討を行うものである。

昨年度は、港周辺の住民に対してアンケート調査を行い、港での親水活動の満足度と親水利用の関係について図中のCに相当するグラフを得た<sup>1)</sup>。

本報文では、図中の表BとグラフAを作成するため、インタビュー調査および現場実験（モニター調査）を行った。その結果、満足感を高める要素として、海の広さ、岸壁の高さ、花や緑の多さなど様々な現場の状況を抽出した。また、これらの要素がどの程度であれば、人は満足感を感じるかを分析した。

## 2. 散歩・つりの場所に関する満足度の要因分析

### 2.1 検討の手順

検討手順を図-2に示す。まず、散歩とつりの満足度に影響する要素を把握するため、AHP（階層分析法）による分析<sup>2)</sup>を行った。ここでは、まず、調査担当者が様々な影響要素を思い付くまま書き出し、次に、近い意味合いの項目をくり合わせて、図-3に示す影響要素を抽出し、階層化を行った。

この階層構造では、レベル1として散歩・つりの場所の満足度、レベル2として場所の雰囲気、来やすさ、安全性・適性、レベル3として、雰囲気については海側の眺め、陸側の様子および海の近さ、来やすさについては近さ、港の入り口の入りやすさおよび車の停めやすさを設定した。安全性・適性については、雰囲気と来やすさに含まれなかった要素を整理し、現場の状況を直接関連付けたため、レベル3を設定していない。

次に、散歩やつりで港に来た人を対象としたインタビューによって、レベル2、雰囲気レベル3および来やすさのレベル3の中の各要素間で一対比較を行い、被験者からどの要素を重視するかを聞き出し、一人一人について要素の重要度とCI値を算出した。ここで、CI値とは、要素の設定や階層構造の適性をあらわし、0.15未満であれば一対比較が概ね良好に行われたことを示す指標である。

さらに、CI値が0.15未満の人を対象として、クラスター分析による被験者のグループ分けを行い、それぞれのグループの被験者の属性を分析し、どのような人がどの要素を重視するかについて検討を行った。なお、属性分析では、年齢、利用目的、交通手段、所要時間、年間利用回数および港湾について検討した。

### 2.2 インタビューの概要

写真1にインタビューの様態を示す。インタビューは、7月20日(土)～21日(日)に函館港、8月3日(土)～4日(日)に紋別港で実施し、あわせて114人分のデータを得た。被験者に海側のながめや陸側の様子な

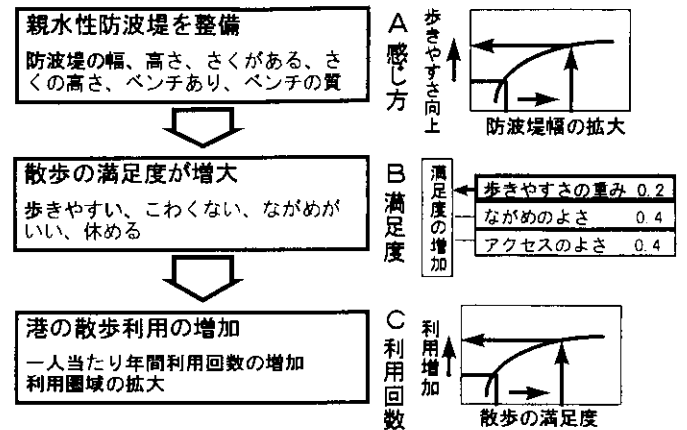


図-1 親水性港湾構造物の評価手法の考え方

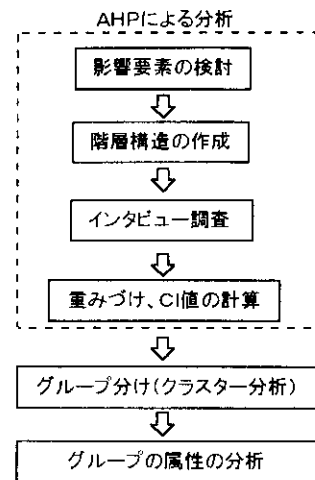


図-2 要因分析の手順

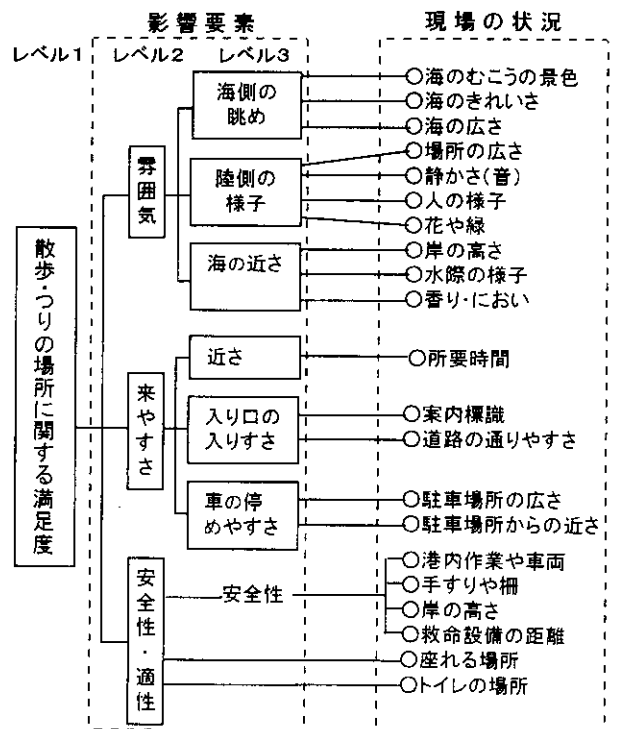


図-3 影響要素と現場の状況

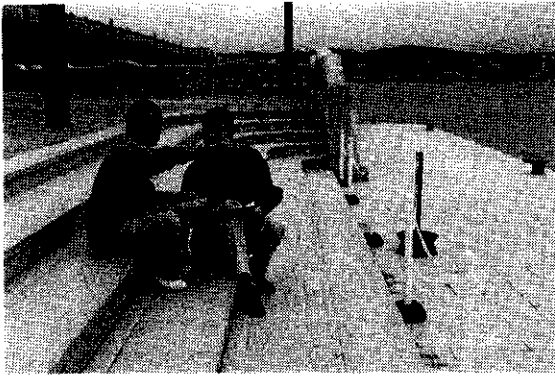


写真1 インタビューの様相

などを観察させながら、アンケートを回答してもらった。1人にかかるインタビューの時間は、15～30分程度であった。インタビューに使用した調査票を付図1に示す。

## 2. 3 AHPによる分析と属性の分析

### (1) レベル2

CI値が0.15未満の人が76人で全体の67%となった。このデータを対象に重要度についてクラスター分析を行った結果、雰囲気重視派、来やすさ重視派、安全性・適性重視派の3つのグループにわかれた。各グループの雰囲気、来やすさ、安全性・適性に対する重要度は表-1aのとおりである。また、属性分析の結果、図-4aに示すとおり年間利用回数が増加すると雰囲気重視派は減少し、来やすさや安全性・適性重視派が増加することが明らかになった。また、年間利用回数が4回以上の人について集計すると、図-4bに示すとおりつり型港湾<sup>1)</sup>の紋別港は安全性・適性重視派が多く、食事買物型港湾<sup>1)</sup>の函館港では来やすさ重視派の割合が多くなっている。

### (2) 雰囲気重視派のレベル3

CI値が0.15未満の人が84人で全体の74%となった。このデータを対象に重要度についてクラスター分析を行った結果、多数派である海側の眺め重視派と海の近さ重視派、少数派である陸側の様子重視派の3つのグループにわかれた。各グループの海側の眺め、陸側の様子、海の近さに対する重要度は表-1bのとおりである。また、属性分析の結果、図-4cに示すとおり年齢が増加すると海側の眺め重視派が増加し、海の近さ重視派が減少することが明らかになった。

### (3) 来やすさ重視派のレベル3

CI値が0.15未満の人が83人で全体の73%となった。このデータを対象に重要度についてクラスター分析を行った結果、多数派の近さ重視派と停めやすさ重視派、少数派の入りやすさ重視派の3つのグループに分かれた。各グループの近さ、入りやすさ、停めやすさに対する重要度は表-1cのとおりである。また、属性分析の結果、図-4dに示すとおり交通手段が徒歩・自転車の人はほとんど近さ重視派であることが明らかになった。また、交通手段が車・バイクの人について集計すると、図-4eに示すとおり散歩目的の人が近さ重視派が多く、つり目的の人が停めやすさ重視派が多いことが明らかになった。

表-1 重要度の計算結果

#### a. レベル2

グループ	人数	割合	重要度		
			雰囲気	来やすさ	安全性・適性
雰囲気重視派	26	34%	0.60	0.13	0.27
来やすさ重視派	24	32%	0.20	0.58	0.22
安全性・適性重視派	26	34%	0.13	0.19	0.68
全体	76	100%	0.31	0.29	0.40

#### b. 雰囲気重視派のレベル3

グループ	人数	割合	重要度		
			海側の眺め	陸側の様子	海の近さ
海側の眺め重視派	40	47%	0.67	0.12	0.20
陸側の様子重視派	13	15%	0.18	0.65	0.17
海の近さ重視派	33	38%	0.28	0.13	0.60
全体	86	100%	0.45	0.20	0.35

#### c. 来やすさ重視派のレベル3

グループ	人数	割合	重要度		
			近さ	入りやすさ	停めやすさ
近さ重視派	37	43%	0.63	0.18	0.19
入りやすさ重視派	10	11%	0.11	0.62	0.28
停めやすさ重視派	40	46%	0.15	0.19	0.66
全体	87	100%	0.35	0.23	0.42

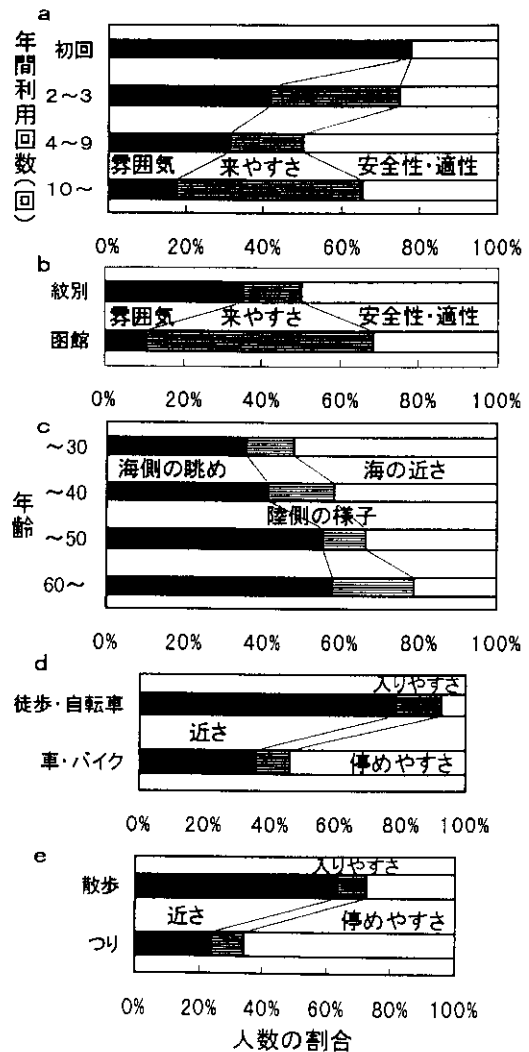


図-4 属性分析の結果

### 3. 「感じ方」と「現場の状況」に関する相関分析

#### 3.1 検討の手順

検討の手順を図-5に示す。まず、インタビュー調査によって、影響要素に関係する現場の状況を被験者から聞き出した。この際、影響要素ごとに1人3つずつ順位をつけて聞き出した。その結果、合計で84項目の現場の状況が重みをつけて得られた。この項目から重みの大きい項目を抽出した結果、最終的に図-3に示した21項目の現場の状況が抽出された。これらの項目について現場実験を行い、海が広い、岸が高い、あるいは座る場所が多いなどの人の感じ方と、良い・良

くないという満足度を5段階評価で測定した。さらに、人の感じ方と満足度について海域の面積、岸壁の高さといった現場の状況に関する客観的なデータとの相関分析<sup>3) 4)</sup>を行った。

#### 3.2 現場実験の概要

写真2に現場実験の様態を示す。現場実験は、9月18日(水)に紋別港、10月3日(木)に函館港で実施した。実験方法は、被験者10名を車に乗せ、設定したルートを通して港の入り口の入りやすさを評価し、所定の位置に駐車して、調査地点まで歩いてもらい、そ

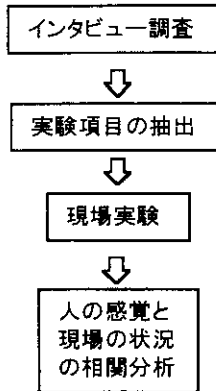
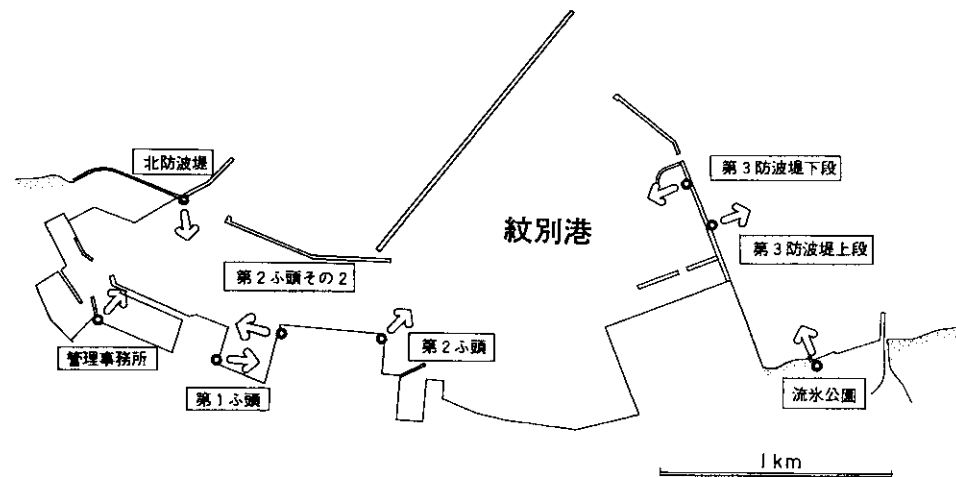


図-5 相関分析の手順



写真2 現場実験の様態



↑は海を眺めた方向を示す。

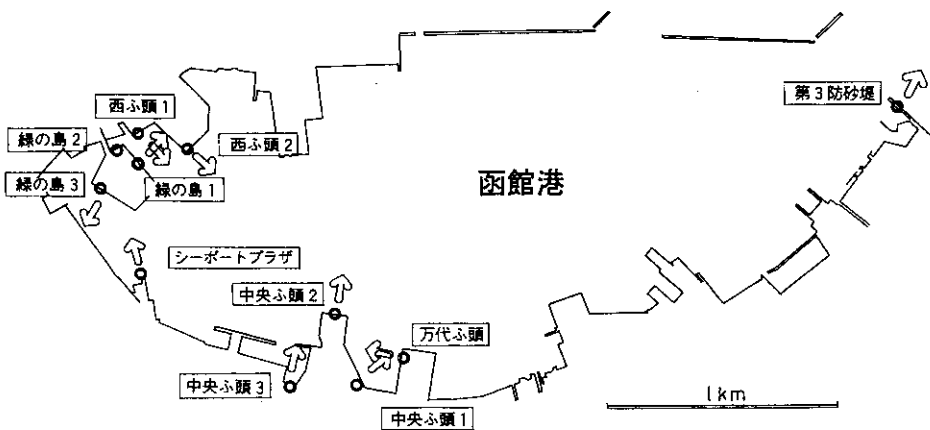


図-6 現場実験の調査地点(紋別港、函館港)

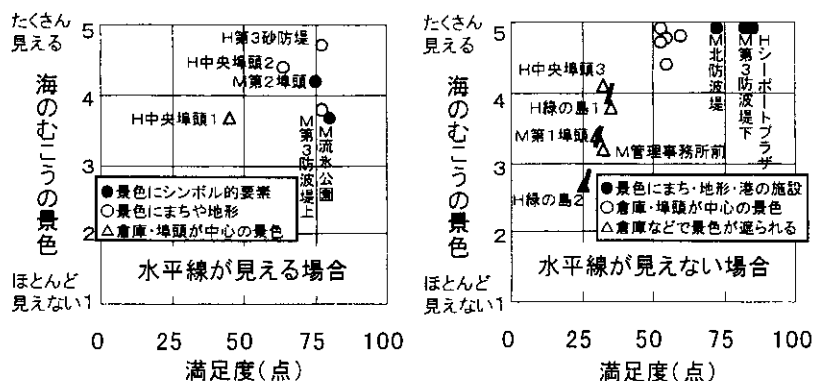


図-7 海のもう一つの景色

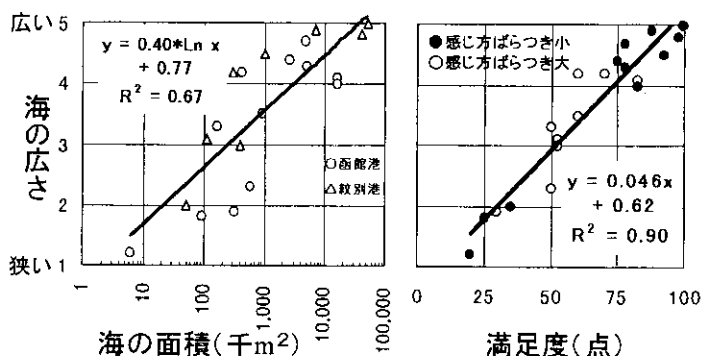


図-8 海の広さ(面積)

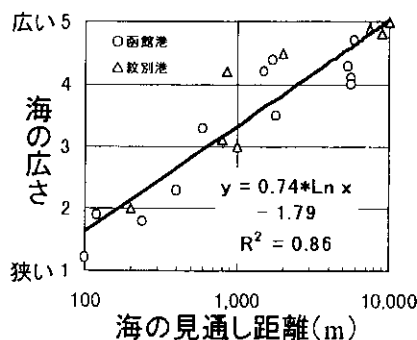


図-9 海の広さ(見通し距離)

ここで海側のながめや陸側の様子など現場の状況を観察し、21項目について感じ方と満足度をアンケートに記入してもらった。調査地点は、図-6のとおり紋別港では8ヶ所、函館港では12ヶ所であった。なお、被験者が海側の眺めを評価する際に、調査地点において海の方を指定した。また、被験者の選定にあたっては、港湾に仕事上関係しないこと、年代が20~40代にわたることとした。現場実験に使用した調査票を付図2に示す。

### 3.3 感じ方や満足度の個人差に関する解釈

現場実験で得られたデータについては、調査地点ごとに10人の平均をとって分析した。この際、標準偏差を算出し、感じ方や満足度の個人差について検討した。その結果、感じ方や満足度の平均値が大きいか、あるいは、小さい場所は、全体的に標準偏差が小さく感じ方が一致している場所であった。平均値が中程度の場所は感じ方がばらついているか、あるいは、中程度に一致していることがわかった。本研究では、標準偏差が小さい項目がどれであることを検討するよりは、むしろ、感じ方の一致した地点がどのような場所になっているかを分析した。なお、3.4においては、海の広さ、場所の広さなど一部の項目について、5段階評価の目盛りより標準偏差が大きい場合は感じ方のばらつき大、小さい場合はばらつき小として掲載した。

### 3.4 相関分析

現場実験の21項目のうち14項目について、感じ方と現場の状況の相関分析を行った結果を次に示す。図中に示した点は、調査地点ごとの10人の感じ方の平均値である。なお、図中のMは紋別港、Hは函館港をあらわしている。

#### (1) 海側の眺め

##### 1) 海のもう一つの景色(図-7)

海のもう一つの景色については、水平線が見える場合と見えない場合において景色の量(ボリューム)との関係を整理した。水平線が見える場合は全体として満足度が高い。また、景色にまちや地形があったり、紋別港の流水タワーのようにシンボリックな要素がある場合には満足度が高くなっている。水平線が見えない場合では、まちと地形と港の施設の3つの要素が調和している景色の満足度が高い。また、倉庫や埠頭が中心の景色は、感じ方のばらつきが大きい。さらに、対岸までの距離が近く倉庫などがある場合には、倉庫が景色でなく遮蔽物として認識されるため、景色の量が減少し評価は低くなる。なお、海のもう一つの景色の構成要素については、被験者に何が見えるかをいくつかの項目から選択してもらい、この結果を集計・整理したものである。また、現地の客観的なデータを抽出することについては、今後の検討課題である。

##### 2) 海のひろさ(図-8)

海の広さの感じ方は、海の面積との相関が高い。海

の面積は、現場実験で指示した岸法線直角方向から左右60度の視野角の中に入る海面の面積を図面上でひろったものである。水平線が見える場合は、視点の高さ $h(m)$ から $L=3600 \times \sqrt{h}$ により見通し距離を求めて図面上でひろっている。その結果、海の面積が概ね200万 $m^2$ を超えると、人は一致して広いと感じ、高い満足度を示すことが明らかになった。また、数万 $m^2$ 未満の海面では一致して狭いと感じ、低い満足度を示しており、数万 $m^2$ から200万 $m^2$ までは感じ方のばらつきが大きくなっていることがわかる。なお、簡便な方法として海の見通し距離についても相関分析を行った。海の見通し距離とは、現場実験で指示した岸法線直角方向の海面の見通し距離である。その結果は、図-9のとおり海の見通し距離より相関が高く、見通し距離が概ね2kmを超えると一致して広いと感じている。

## (2) 陸側の様子

### 1) 場所のひろさ (図-10)

場所のひろさの感じ方は、埠頭などその場所の面積との相関が高い。広さが5千 $m^2$ を超えると、人は一致して広いと感じ、高い満足度を示すことが明らかになった。

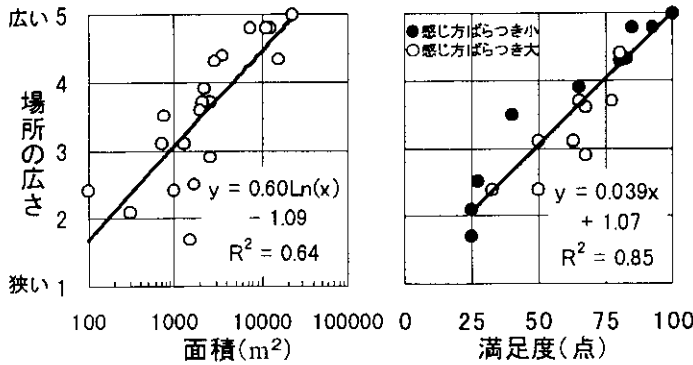


図-10 場所の広さ

### 2) 静かさ (図-11)

静かさの感じ方と満足度の相関は高い。今回の現場実験では全体として静かな場所が多く、これらの場所は静かさ3から4に集まっている。しかし、最も静かで満足度の高い場所は音が全くない場所ではなく、砂浜に打ち寄せる波の音が静かに聞こえる紋別港の流水公園であった。満足度が25点と低い場所は、近くで工事中あるいは車両通行の多い道路が隣接する場所などであった。なお、聞こえる音の種類については、現場実験で被験者が聞こえた音を記入してもらっており、その結果を集計・整理したものである。

### 3) 人の様子 (図-12)

人の様子として周囲の人の数の多さを評価したが、平日に現場実験を実施したため港に訪れている人が少なく、構造化するにはデータとしては不足していると思われる。

### 4) 花や緑 (図-13)

花や緑の量の感じ方は、多いか少ないかの判断や満足度に関する評価が非常にはっきりしており、また、感じ方が一致しているのが特徴である。

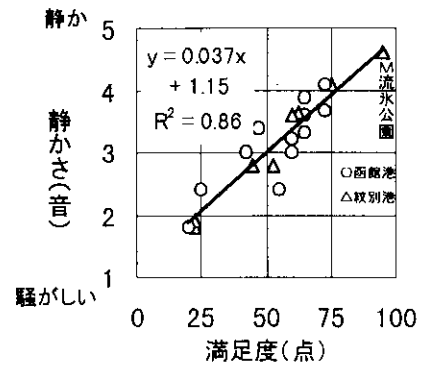


図-11 静かさ (音)

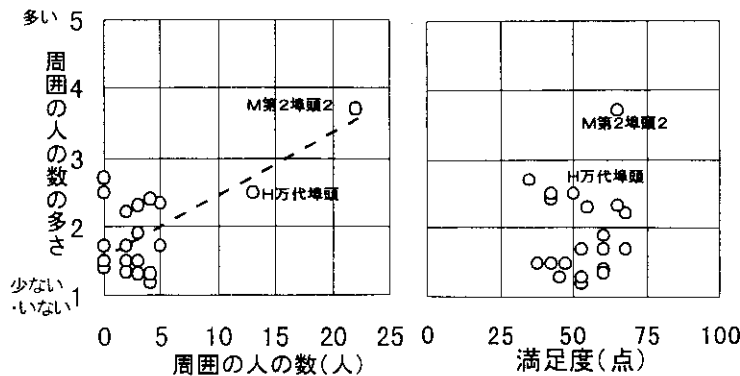


図-12 人の様子

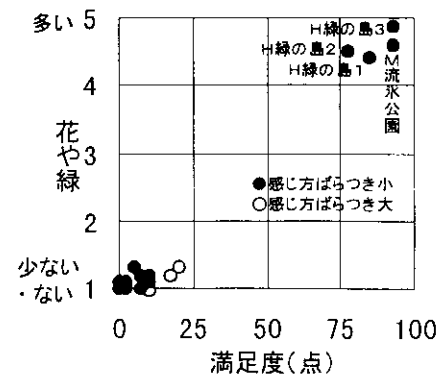


図-13 花や緑

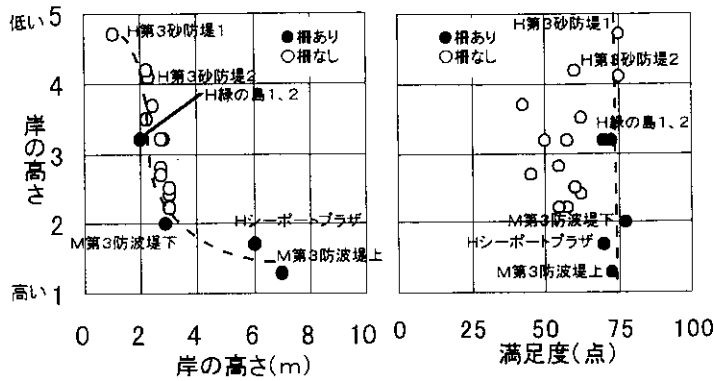


図-14 岸の高さ（雰囲気）

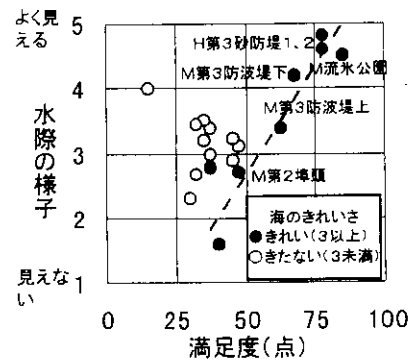


図-15 水際の様子

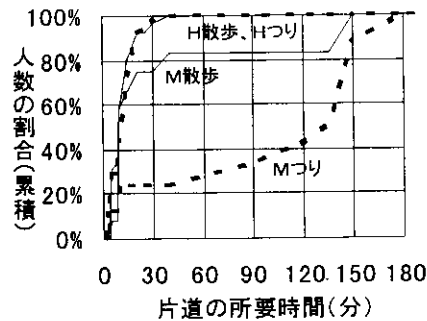


図-16 出発点からの所要時間

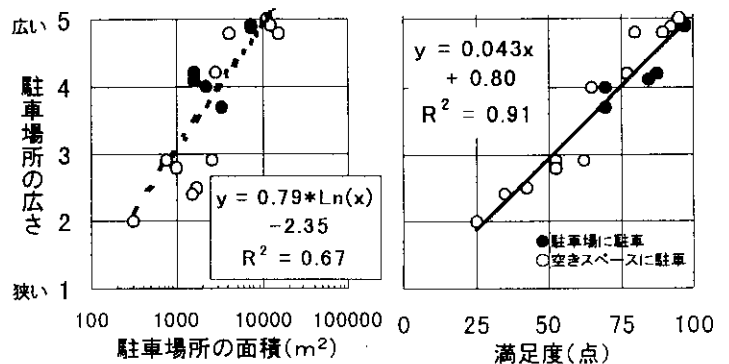


図-17 駐車場所の広さ

### (3) 海の近さ

#### 1) 岸の高さ (図-14)

岸の高さ(D.L.)の感じ方は、1m程度で低いと感じ、2mを超えると急激に高いと感じるようになる。ただし、岸が高い場合でも柵があれば満足度75点を確保できる。これは、柵がない場合の岸の高さ1mの満足度に相当する。なお、安全性の項目においても岸の高さを評価したが、その感じ方と多少異なる。

#### 2) 水際の様子見え方 (図-15)

水際の様子見え方と満足度の関係は、海のきれいさと密接な関係がある。海のきれいさの評価が3以上で比較的きれいであれば、水際の様子がよく見えるほど満足度が高くなる。一方、海のきれいさが3未満と比較的きたなければ、水際がよく見えるからといって満足度は増加しない。

### (4) 近さ

#### 1) 所要時間 (図-16)

出発地から到着地までの所要時間の感じ方は現場実験によってデータを収集することができない。このため、インタビュー調査で「来やすい」と回答した人がどの程度の時間をかけて港に来ているかで検討を行うこととした。函館では散歩、つりともにおよそ15分で80%を占めている。紋別では散歩が15分で80%程度で

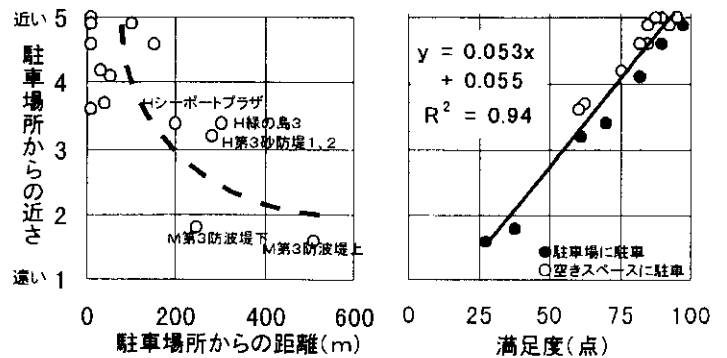


図-18 駐車場所からの近さ

あるが、つりについては15分では20%程度であり、そのほとんどが2時間～2時間半をかけて旭川方面から来た人である。このことから、散歩については15分が目安となるが、つりについては近隣の都市との距離に関係するため、個別に評価を行う必要があると考えられる。

### (5) 車の止めやすさ

#### 1) 駐車場所の広さ (図-17)

駐車場所の広さの感じ方は、駐車場所の面積と高い相関がある。駐車場を利用した場合は満足度が高く、心理的に十分な駐車スペースが確保されていたことが示されている。

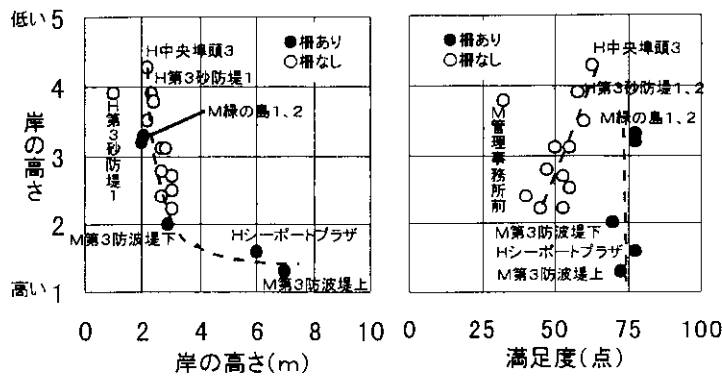


図-19 岸の高さ(安全性)

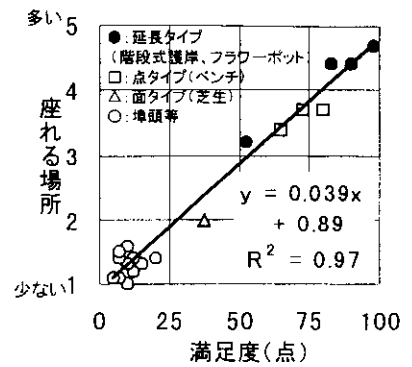


図-20 座れる場所

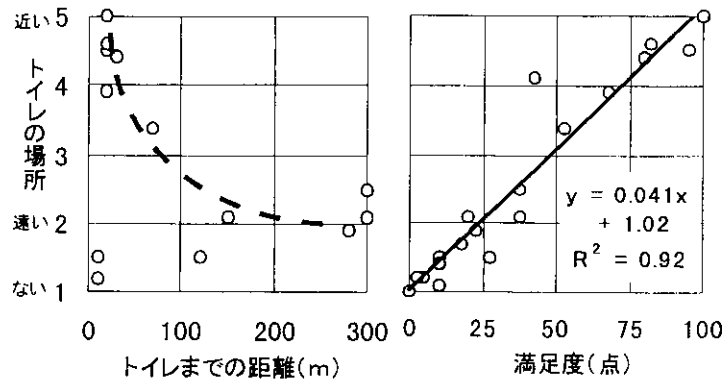


図-21 トイレの場所

## 2) 駐車場所からの近さ(図-18)

駐車場所からの近さの感じ方は、距離との関係があると考えられる。しかし、ほぼ同様な距離でも函館の第3砂防堤と紋別港の第3防波堤のように近さの感じ方や満足度が異なるものがあり、さらなるデータの蓄積が必要である。

### (6) 安全性・適性

#### 1) 岸の高さ(図-19)

岸の高さが2mを超えると急激に高いと感じる点は、海を近く感じるための岸の高さと同様である。しかし、その満足度は、柵がなければ岸が高いほど明らかに減少し、また、岸が低くとも柵のある場合の満足度75点に達することはない。

#### 2) 座れる場所(図-20)

座れる場所が多いと感じることと座れる場所に対する満足度は高い相関がある。座れる場所が多いと評価された場所には、岸の延長方向に階段式護岸やフラワーポットがあった。ベンチが設置されている場所の満足度はこれに次ぐ。芝生は座れる場所としてあまり認識されなかった。一般の埠頭や防波堤においては座れる場所の評価は低い。

#### 3) トイレの場所(図-21)

トイレの場所の近さの感じ方は、距離と密接な関係

がある。100mを超えると遠いと感じ、満足度も低くなる。しかし、10mぐらいの近い位置にあるトイレであっても「ない」と認識されるものもある。これは質的に使用に耐えないためであり、トイレの評価は質を含めた検討が必要である。

### 4. まとめ

本報の主要な結論は次のとおりである。

- (1) 港に散歩やつりに来た人に対してインタビュー調査を実施し、AHPによる分析を行った結果、散歩やつりの満足感に影響力の強い現場の状況を抽出することができた。
- (2) (1)の項目について現場実験を行い、人の感じ方や満足度で現場の状況を評価できることを確認し、いくつかの項目について関連性を見出した。

### 5. 今後の方針

今後は、現場の状況に関する相関分析を進めるとともに、平成7年度の検討結果とあわせて手法全体の評価を行う所存である。

これにより親水性港湾構造物の評価手法を確立することができれば、現場の状況をどのように整備するとどのような人がどの程度の満足感を得られる施設を提供できるか、あるいは満足感がどの程度であればどの



範囲の住民がどの程度利用するようになるかを段階的に評価することが可能になると考えられる。

このような住民の満足感による施設の評価手法は、親水性施設を計画する際の適地選定、施設内容や規模の設定および事前評価、あるいは設計する際の断面形状や寸法の決定、すでに整備した施設の向上策の提案等に活用できると考えられる。また、港の整備を推進する上で、以前にもまして重要となってきた住民の参加とコンセンサスを得たコンセプトづくり<sup>5)</sup>を支援する手法のひとつとして役立つことができると考えられる。

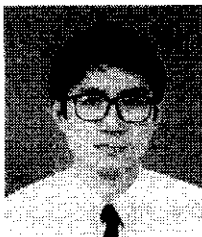
## 6. おわりに

インタビューおよび現場実験の実施にあたっては、

紋別市役所、(株)折谷組にご協力をいただいた。ここに記して感謝の意を表するとともに、本研究を推進するにあたりご指導ご協力を賜った多くの方々に深く御礼を申し上げる。

### 参考文献

- 1) 佐野、笹島、佐藤：地域住民の余暇空間としての港の評価指標に関する考察、土木学会北海道支部論文報告集1995
- 2) ゲーム感覚意思決定法AHP入門(刀根薫著、日科技連)
- 3) 島谷幸宏編著：河川風景デザイン、山海堂
- 4) 松浦茂樹・島谷幸宏共著：水辺空間の魅力と創造、鹿島出版会
- 5) 光成、佐藤、中島：今後の地方港湾における港湾整備のありかた、平成7年度北海道開発局技術研究発表会概要集(4)



佐野 透\*

開発土木研究所  
環境水工部  
港湾研究室  
研究員



明田 定満\*\*

開発土木研究所  
環境水工部  
港湾研究室長



久保 彦一\*\*\*

北日本港湾コンサルタント編  
技術部計画1・2課  
課長



梅田 滋\*\*\*\*

㈱コミュニティ研究所  
代表

この調査は、みなさんに一層親しまれる港の整備方法を検討するために、港の利用実態を調べるものです。誠に恐縮ですが、調査の主旨にご理解をいただき、ご協力をお願いいたします。なお、調査結果は統計的に扱いますので、個人のお答えが公表されることはありません。

平成8年7月

はじめにお聞かせください。

- 1 ここには、どのような交通手段できましたか?
2 あなたのお住まいはどちらですか?
3 ここまで、どのくらいの時間がかかりますか?
4 ここには年何回くらい来ますか?
5 港の他の場所には行ったことがありますか?
6 今日は何時頃から来ていますか?

問1: ここに来た目的は何ですか。当てはまる答えをいくつでも選んでください。

- 1) 体力や健康づくりのため
2) 港らしさを楽しむため
3) 気分転換や気晴らしのため
4) 思い出や考え事のため
5) 家族サービスのため
6) 釣りを楽しむため
7) その他

問2-(1): この場所の雰囲気はどうですか。当てはまるものをひとつ選んでください。

非常に良い やや良い ふつう やや悪い 非常に悪い

問2-(2): この場所の雰囲気としてあなたが重視するものは、それぞれ左右のどちらですか。

(左) 非常に重視 かなり重視 まあまあ重視 同じくらい まあまあ重視 かなり重視 非常に重視 (右)

- 1 海側のながめ
2 岸側のようす
3 海の近さ
海側のながめ
岸側のようす
海の近さ

問2-(3): それぞれどんなことが重要ですか。3つまで選んでください。

- 1 海側のながめで重要なのは、どんなことですか?
2 岸側のようすで重要なのは、どんなことですか?
3 海の近さで重要なのは、どんなことですか?

問3-(1): ここまでの来やすさはどうですか。当てはまるものをひとつ選んでください。

非常に良い やや良い ふつう やや悪い 非常に悪い

問3-(2): ここまでの来やすさとしてあなたが重視するものは、それぞれ左右のどちらですか。

(左) 非常に重視 かなり重視 まあまあ重視 同じくらい まあまあ重視 かなり重視 非常に重視 (右)

- 1 近さ
2 港の入口の入りやすさ
3 車や自転車のとめやすさ
港の入口の入りやすさ
車や自転車のとめやすさ
近さ

問3-(3): それぞれどんなことが重要ですか。3つまで選んでください。

- 1 近さで重要なのは、どんなことですか?
2 港の入口の入りやすさで重要なのは、どんなことですか?
3 車や自転車のとめやすさで重要なのは、どんなことですか?

問4-(1): ここは、釣りあるいは散歩の場所として、適していますか。

非常に良い やや良い ふつう やや悪い 非常に悪い

問4-(2): それぞれどんなことが重要ですか。3つまで選んでください。

- 1 釣りに適していると感じるのは、どんなことから?
2 散歩に適していると感じるのは、どんなことから?

問5: ここに来た理由としてあなたが重視するものは、それぞれ左右のどちらですか。

(左) 非常に重視 かなり重視 まあまあ重視 同じくらい まあまあ重視 かなり重視 非常に重視 (右)

- 1 この場所の雰囲気
2 ここまでの来やすさ
3 釣りや散歩に適しているかどうか
この場所の雰囲気
釣りや散歩に適しているかどうか
この場所の雰囲気

ご協力ありがとうございました。

付図1 インタビューの調査票

表面 (B4版)

現場実験/調査票-1

●サンプル番号=M00 / ●港名=岐別港 / ●調査地点名=

質問1: 観察項目		1. 周辺の様子を観察して、それぞれあてはまるものを一つだけ選んで、○をつけてください。 ※印の問については、あてはまるもの全てに○をつけ、さらに、「ほか」があれば( )内に記入してください。						
		1	2	3	4	5		
雰囲気	1 海側の眺め	1 見える海の広さ	1. 広い	2. やや広い	3. どちらとも言えない	4. やや狭い	5. 狭い	
	2 海のきれいさ(色や光など)	1. きれい	2. ややきれい	3. どちらとも言えない	4. ややきたない	5. きたない		
	3 海の向こうの景色	1. たくさん見える	2. 少し見える	3. どちらとも言えない	4. あまり見えない	5. ほとんど見えない		
		※何の景色が見えますか→ 防波堤、灯台、船、人、車、倉庫、街並み、山などの地形、ほか( )						
来やすさ	2 岸側のようす	1 この場所の広さ	1. 広い	2. やや広い	3. どちらとも言えない	4. やや狭い	5. 狭い	
	2 聞こえる音	1. 静か	2. やや静か	3. どちらとも言えない	4. やや騒がしい	5. 騒がしい		
	3 まわりの人のようす	1. 多い	2. やや多い	3. どちらとも言えない	4. やや少ない	5. 少ない・いない		
	4 花や緑	1. 多い	2. やや多い	3. どちらとも言えない	4. やや少ない	5. 少ない・ない		
来やすさ	3 海の近さ	1 海面からの高さ	1. 低い	2. やや低い	3. どちらとも言えない	4. やや高い	5. 高い	
	2 水階のようす	1. よく見える	2. 少し見える	3. どちらとも言えない	4. あまり見えない	5. 見えない		
	3 香り・におい	1. 強い	2. やや強い	3. どちらとも言えない	4. やや弱い	5. 弱い・ない		
		※どんな香りや臭いを感じますか→ 潮の香り、魚臭、油、貨物、ほか( )						
		● 海の近さ全体として	1. 近く感じる	2. やや近く感じる	3. どちらとも言えない	4. やや遠く感じる	5. 遠く感じる	
来やすさ	4 港の入口の入りやすさ	1 案内標識	1. 見やすい	2. やや見やすい	3. どちらとも言えない	4. やや見にくい	5. 見えない	
	2 道路	1. 通りやすい	2. やや通りやすい	3. どちらとも言えない	4. やや通りにくい	5. 通りにくい		
		● その他	※そのほか、港の入口で入りにくいと感じる原因はありますか → ( )					
来やすさ	5 車の停めやすさ	1 停める場所の広さ	1. 広い	2. やや広い	3. どちらとも言えない	4. やや狭い	5. 狭い	
	2 停めた場所からここまでの近さ	1. 近い	2. やや近い	3. どちらとも言えない	4. やや遠い	5. 遠い		
安全性・適性	6 釣りや散歩の適性	1 安全性	1) 港内作業や車両	1. 多い	2. やや多い	3. どちらとも言えない	4. やや少ない	5. 少ない・ない
		2) 手すりや柵	1. 多い	2. やや多い	3. どちらとも言えない	4. やや少ない	5. 少ない・ない	
		3) 岸壁の高さ	1. 低い	2. やや低い	3. どちらとも言えない	4. やや高い	5. 高い	
		4) 救命設備までの距離	1. 近くにある	2. やや近くにある	3. どちらとも言えない	4. やや遠くにある	5. 遠い・ない	
		5) その他	※ほかに、安全だと感じるものがありますか → ( ) ※ほかに、危険だと感じるものがありますか → ( )					
2 座れる場所	1. 多い	2. やや多い	3. どちらとも言えない	4. やや少ない	5. 少ない・ない			
3 トイレの場所	1. 近くにある	2. やや近くにある	3. どちらとも言えない	4. 遠くにある	5. 見えない・ない			
7 (1) この場所のふだんの利用頻度(釣り) →		1. よく利用する	2. たまには利用する	3. 全く利用しない				
(2) この場所のふだんの利用頻度(散歩) →		1. よく利用する	2. たまには利用する	3. 全く利用しない				

現場実験/調査票-2 裏面 (B4版)

質問2: 評価項目		2. 場所の様子から、各々あてはまる評価をひとつだけ選んで○をつけてください。						
		とても良い	やや良い	どちらとも言えない	あまり良くない	良くない		
雰囲気	1 海側の眺め	1 海の広さ	1	2	3	4	5	
	2 海のきれいさ(色や光など)	1	2	3	4	5		
	3 海の向こうの景色	1	2	3	4	5		
		● 海の眺め全体として	1	2	3	4	5	
来やすさ	2 岸側のようす	1 この場所の広さ	1	2	3	4	5	
	2 聞こえる音	1	2	3	4	5		
	3 まわりの人のようす	1	2	3	4	5		
	4 花や緑	1	2	3	4	5		
		● 岸側の様子全体として	1	2	3	4	5	
来やすさ	3 海の近さ	1 海面からの高さ	1	2	3	4	5	
	2 水階のようす	1	2	3	4	5		
	3 香り・におい	1	2	3	4	5		
		● 海の近さ全体として	1	2	3	4	5	
4 この場所の雰囲気全般として		1	2	3	4	5		
来やすさ	5 港の入口の入りやすさ	1 案内標識	1	2	3	4	5	
	2 道路	1	2	3	4	5		
		● 港の入口の入りやすさ全体として	1	2	3	4	5	
来やすさ	6 車の停めやすさ	1 停める場所の広さ	1	2	3	4	5	
	2 停めた場所からここまでの近さ	1	2	3	4	5		
		● 車の停めやすさ全体として	1	2	3	4	5	
7 この場所への来やすさ全般として		1	2	3	4	5		
安全性・適性	8 釣りや散歩の適性	1 安全性	1) 港内作業や車両	1	2	3	4	5
		2) 手すりや柵	1	2	3	4	5	
		3) 岸壁の高さ	1	2	3	4	5	
		● 安全性全体として	1	2	3	4	5	
		2 座れる場所	1	2	3	4	5	
3 トイレの場所	1	2	3	4	5			
		● 釣りや散歩の適性全体として	1	2	3	4	5	
9 この場所全体としての評価		1	2	3	4	5		

付図2 現場実験の調査票